

「信更地区の公共施設を考える」 市民ワークショップ ～第2回～

2018年7月15日



主催：長野市（公共施設マネジメント推進課・信更支所）

協力：信更地区住民自治協議会

開催支援：日本管財（株）（一財）長野経済研究所
信州大学工学部建築学科

ワークショップ全体の流れ

	時 間	内 容	場 所
第1回 ワークショップ	6月17日(日) 9:30-11:30	オリエンテーション グループワーク 将来どんな地区にしていきたいかを考える。	信更公民館
第2回 ワークショップ	7月15日(日) 14:00-16:00	グループワーク 公共施設でしたいこと・活動を考える。	信更公民館
第3回 ワークショップ	8月26日(日) 14:00-16:00	グループワーク 自分たちにできること・信更の公共施設の 将来像を考える。	信更公民館

※グループ検討の内容は、状況によって変更する場合があります。

今日のスケジュール

時間	内容	詳細
14:00-14:15	オリエンテーション	ワークショップのねらいの再確認 第1回ワークショップの振り返り
14:15-14:25	信州大学から施設魅力説明	学生が感じた信更地区の可能性
14:25-14:55	グループワーク	ワークショップのルール確認 <テーマ> 公共施設でしたいこと・活動
	休憩（10分間）	
15:05-15:35	グループワーク	<テーマ> 公共施設でしたいこと・活動 （可能なら）複合化・集約化
15:35-15:55	各グループからの発表	1グループ3分で発表
15:55-16:00	まとめ・アンケート記入	第2回のまとめと、第3回以降の進め方

ワークショップのねらい再確認

いま起きている公共施設の状況 (おさらい)

別冊資料参照

いま起きている公共施設の状況
(おさらい)



1

第1回ワークショップの振り返り

Aグループ 生きがいを感じる信更

産業

- ・自分の特技（趣味）を活かせる社会
- ・お年寄りがつくるアップルパイ工場
→生きがい
- ・人材センターの充実
- ・コンビニ付道の駅
- ・結婚式場
- ・小遣い稼ぎのできる産業
- ・地場産業に力を入れる
- ・買い物を簡単に

交流

- ・豊かな緑を残す
- ・広場で子ども達が遊んでいる姿
- ・交流の場を多く欲しい
- ・地区間の交流
- ・観光、拠点発掘
- ・地区対抗運動会
- ・外から人が来られる施設
- ・若い人が外からくる人がいる社会
- ・地区ごとのシンボルをバスで巡る
- ・りんごの里

生きがい

- ・福祉施設がさらに必要
- ・各地区で花畑等作成
- ・老人も生きがいを感じられる
- ・老人の住みやすい
- ・長野県は長寿日本一、長野市を健康日本一にしたい
- ・有償ボランティアでもよいので各地区で人員を確保できたらいい
- ・積極的にボランティアをしてくれる人々の養成
- ・一定の生活ができる社会

交通

- ・歩行が困難になっている人々のこまめな足が必要
- ・他の区への移動を楽に
- ・歩道付の道路（電動車いす）
- ・市道等のS字カーブの取り除き
- ・バス利用を増やすための工夫

【発表で出た意見】

高齢者が生きがいを感じられるための提案をまとめた。まず、名物等を活かした産業、次に、福祉や助け合いが出来るような仕組み、そして、地区内や地区外との交流、最後に、交通をどうするかを考えた。

第1回ワークショップの振り返り

Bグループ 地区の将来、こんな信更を作りたい

付随してくる問題 (生活の切実な課題)

- ・落石・倒木等が心配
- ・高速道路のインターのある地区
- ・車が走りやすい地区
- ・獣が畑に出てこない地区
- ・有害鳥獣などの安全確保（散歩者・学生）
- ・若者が農業をしやすい
- ・各地区に商店が一つくらいある地区
- ・公共施設により発展していく政策
- ・指定管理者制度を生かした社会
- ・教育施設を増やして、地域の発展につなげていける地区

地域の魅力・伝統

- ・空き家がいっぱいある
- ・信更町若者会議
- ・古い祭りの復活
- ・信更の知名度があがる地区
- ・各地区の個性・伝統が伝わる地区
- ・祭りが盛ん
- ・豊かな自然を大切にしたい

中心的问题

- ・全世代が魅力を感じている地区
- ・たくさんの方が住む地域にしたい
- ・子どもが多くにぎやかな地区
- ・元気ある地域若い人の住みやすい地域になればいい
- ・若者が住みやすい地区
- ・生活と周辺環境が対応している地区
- ・働く場所があって活動的な地区
- ・退職後の生活の場。自給自足。
- ・退職した人たちに来てもらいたい
- ・一人暮らしの老人が安心して住める町

- ・地区役員がすぐ回ってこない地区
(地区役員・役職が多く一人何役も引き受ける現状をなくしたいので…)

第1回ワークショップの振り返り

Cグループ こんな信更にしたい！

宿泊

- ・少し留まっていたくなる町
- ・外国人観光客を呼び込みたい
- ・民泊、体験型ツーリズムをやりたい
- ・温泉を掘る、温泉施設をつくる
- ・トレーラーハウス村
- ・宿泊所

- ・民泊の受け入れの基盤はある。
- ・事業ではなく、各家庭で受け入れている。

その他

- ・代表できる事業の確立
- ・来たいと思えるような商品をつくる
- ・手作りクラフト市の開催
- ・若者会議がいろいろと首をつっこむ
- ・お年寄りが安心して暮らせる町
- ・交通の便をよくしたい
- ・廃校に芸術家に住んで作品を作ってもらう、演劇の上演。

農産物

- ・ワインをつくりたい
- ・ワイナリー、レストランをつくりたい
- ・特産のリンゴを活かしたお菓子をつくり、店を開く

- ・農産物の主力は、たねもみ、リンゴ、ブルーベリー。
- ・最近、ワインぶどうの栽培が始まった。

- ・コレ！といったウリがない。
- ・公共施設は、まとまっていて便利だが、国道19号沿いに住んでいる人は、買い物などを考えると、そのエリアまで来ないこともある。

子ども

- ・子どもの遊んでいる姿が、あちこちで見られる風景
- ・子どもから大人まで集える施設
- ・国際ワークキャンプが定着している

自然

- ・ひまわりの点々と咲いている町
- ・花のある町、オープンガーデン
- ・ホテルのきれいな地区
- ・自然を活かし集客できるレクリエーション施設
- ・ふらっと来て、自然を満喫できる
- ・星空の美しい山里（高野）を知ってもらおう

- ・ホテルまつりの開催に、小学校見学ツアーを組み合わせ、小学校を知ってもらう機会を設けている。

- ・国際ワークキャンプは、小学校の授業と連携している。それをウリにして、小規模特認校にしてもらい、移住につなげたい。
- ・国際ワークキャンプの参加者は、地区の公民館に宿泊している。

Uターン

- ・住みたいと思われるような風景、畑をつくりたい
- ・若者が定住できる魅力
- ・戻って来なくなる魅力
- ・もっと空き家を活用する

第1回ワークショップの振り返り

Dグループ “しんこう”に“じんこう”を

交流人口UP

＜祭りやイベントを通じて関連人口＝交流人口を増やす＞

- いっぱ祭りみたいなイベント
→祭りの人集め（アピール、宣伝等を大々的、積極的に）
→祭りの規模も大きくすべき
- 移住定住につながる交流人口UP（民泊、農業体験）
- 地区対抗大運動会
- つりのイベント
→ため池利用、以前はワカサギ釣り今はブラックバス釣り
→ゆるきゃらや昔話とつなげるのはどうか
- 秋の収穫祭（種もみ・りんごが有名）
- おやきやさん
- 星空観賞
→高野分校を利用、宿泊もできるように
- 企業誘致 工場やリゾート施設
- 大学の合宿利用
→入浴設備もある高野分校に誘致できないか
→更府小も活用。

移住

- 子どもが住みたいと思える信更にしたい
- 安全に通勤通学できる道路が必要
→自動運転者を導入して福祉自動車として活用
→保育園の送迎をタクシーで
お母さんの都合で時間が決められる
→ガソリン半額！
- 保育園・小・中学が同じエリアに存在してほしい
- 山を整備して災害に強くきれいな里山へ
- 通学バスのバス代補助を
→学生が住みやすければ移住も増える
- 就労場所を作る
- 移住者の住める空き家を増やす
- 地区内⇄駅の移動しやすい交通手段
- 農産物のブランド化、就農しやすく

若者の定住化

場

＜“ソト”に発信していく＞

- 若者が気軽に集まれる場や活動拠点が欲しい
- 地域活性に繋がる活動の拠点
- 特産物販売所
- カフェ
- コンビニ

里山利用

- 猟友会も高齢化、次世代の会員を増やす、アピールする
- ジビエの利用、加工体験をして獣害対策
- 獣害対策をして畑が安心してできるようにしたい
- 山を整備して災害に強く
- 赤田、山信のりんご等の農産物のブランド化
- へちま作り、タネモミ体験等の農業体験プログラムを作る

第1回ワークショップの振り返り

Eグループ 地区の将来、こんな信更を作りたい



テーマ

- ・信更にしかないものを見出す
- ・新しい人を呼びたい
- ・若い人を呼び込むにはどうしたらいいか

自然

- ・自然体験・遊び
- ・自然を残したい
- ・自然公園→虫取り・魚・川遊び
- ・ほたるを増やす
- ・ほたる祭り 特色を！
- ・田んぼの景色
- ・田んぼが広がる田園風景
- ・緑、自然を残したい、虫

- ・インスタスポット
- ・ツリーハウス

景色

- ・長野市を一望
- ・景色を生かしたい、緑
- ・アルプスの景色

- ・作らずにあるものを再利用

- ・歴史を大事にする

- ・老人の力

食べ物

- ・ワイン
- ・山菜
- ・竹の子
- ・わらび (おかずにもデザートにもなる)
- ・りんご (りんご祭り、アップルパイ)
- ・おやき

- ・旧小学校を宿泊施設に利用

生活

- ・ワイン
- ・遊ぶ場所・遊具
- ・ネットなど生活設備
- ・刀

- ・病院
- ・買い物ができる店
- ・働く場所

交流

- ・民泊
- ・体験型農業
- ・ツアーを行う
- ・外国人の方が信更に農業、ボランティア
- ・日本昔話に出てくる場所が
- ・おまつり、イベント
- ・空き家の対策。若い人が住める家を！

信州大学から施設魅力説明

学生が感じた信更地区の可能性

別冊資料参照

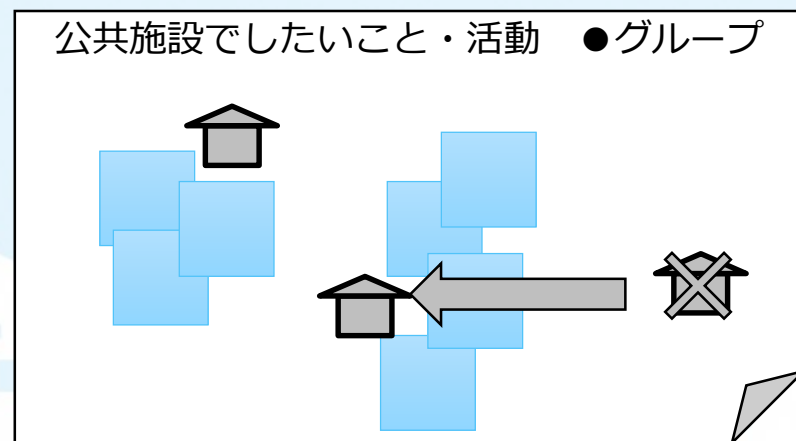
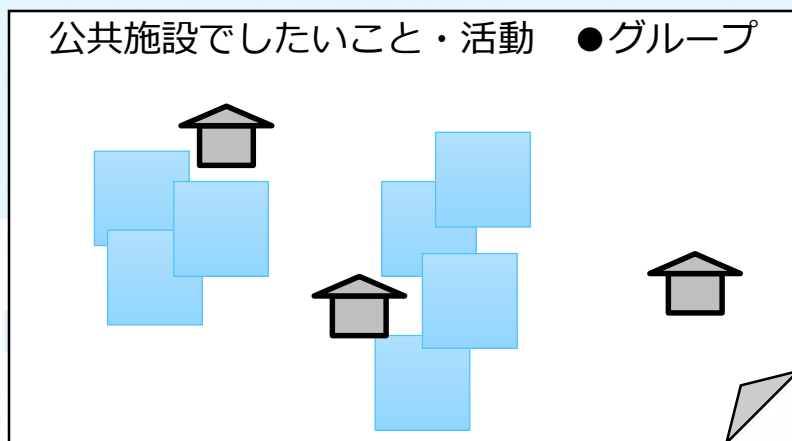
学生が感じた信更地区の可能性

グループワーク テーマ

公共施設でしたいこと ・活動

検討のポイント

- ① 自分の意見をできるだけ多く付箋に書き出す
- ② 付箋1枚につき1つの意見を書く
- ③ 活動がどこの施設でできるかを考える
- ④ (可能なら) 集約化、複合化を視野に

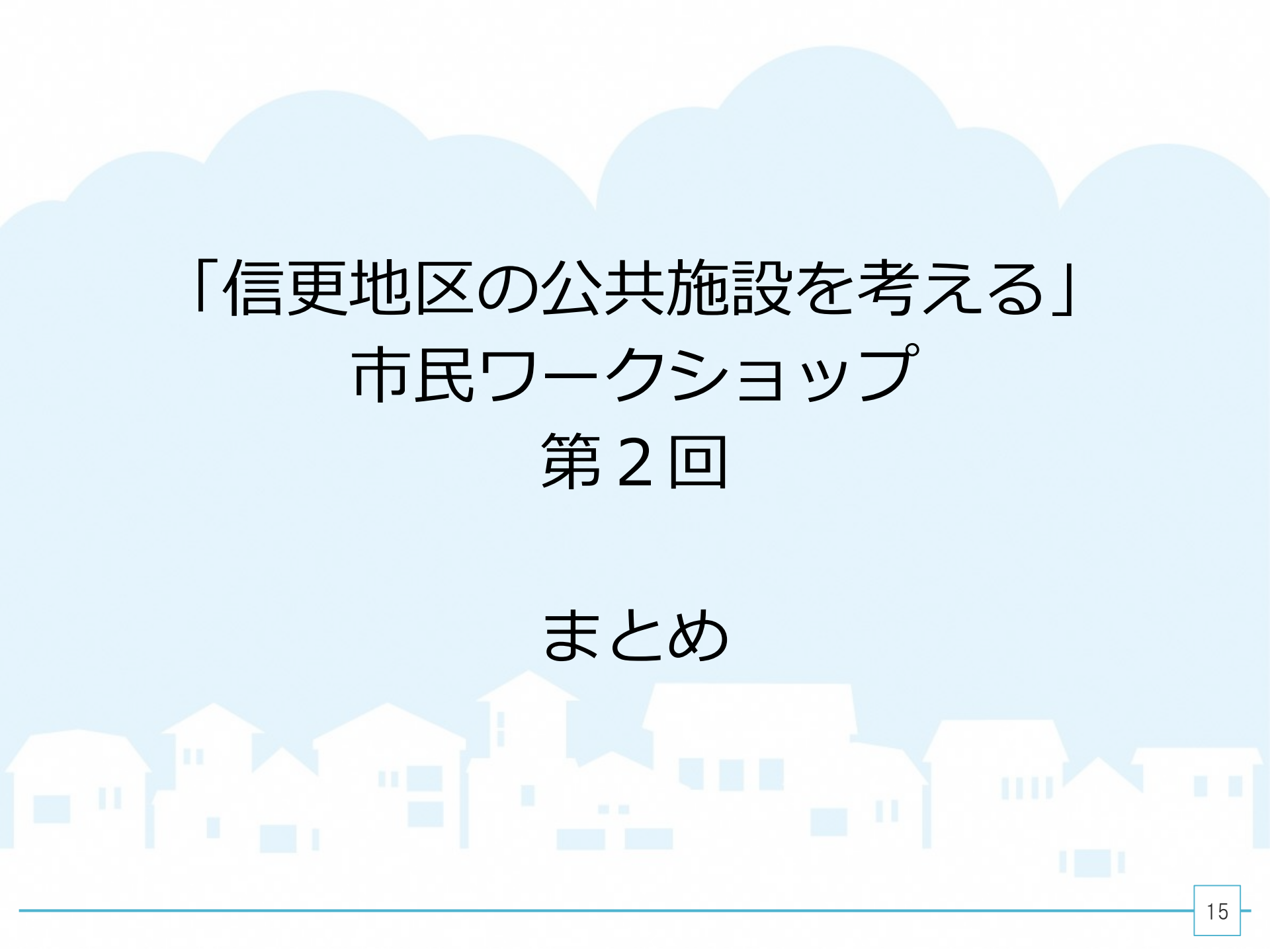


ワークショップでの約束

1. 思いついたらすぐ発言しよう
2. 他人のアイデアを否定しない
3. みんなで振り返る時間を大切にしよう
4. 自由な発想でアイデアを考えよう

グループワークの結果発表

- ① 1グループ3分で発表
- ② どのような活動が出ましたか？
- ③ その活動はどの施設でできますか？



「信更地区の公共施設を考える」
市民ワークショップ
第2回

まとめ

本日はありがとうございました。

次回の開催は、
8月26日（日） 14：00～
信更公民館
です。

※ 最後に、アンケートのご記入をお願いします。 ※